

福島県棚倉町の里山の再生・活用に向けて

2014年度から当プロジェクトを進めています。プロジェクトの実施に至った経緯とこれまでの活動内容は下記のとおりです。

経緯

当プロジェクトのキーパーソンは奥野善彦弁護士です。奥野弁護士は少年時代を福島県棚倉町で過ごされました。棚倉町は栃木県と茨城県の両方に隣接する町で、江戸時代には棚倉藩の城下町として栄えました。2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は棚倉町にも大きな被害をもたらしました。棚倉町とその自然を愛する奥野弁護士は、被災した町の復興に尽力することを決意され、その具体的な活動として里山の再生・活用を企画されました。しかし、奥野弁護士は里山の専門家ではありません。そこで、奥野弁護士は旧知の仲である当館の岩槻邦男名誉館長（当時は館長）に協力を求めました。「人と自然の共生」を旗印とする当館は開館以来、兵庫県内および県外で様々な地域貢献活動を実施してきました。里山の再生・活用にも積極的に取り組み、多くの成果をあげてきました。私達は、これらの活動で得たノウハウや知見などを棚倉町の復興に役立てることができるのではないかと考え、当プロジェクトを実施することにしました。

里山の調査

里山の再生・活用を図るためには、第一段階として里山の現状（特に生物の生息状況）を把握するための調査を行う必要があります。私達は2014年度から植物の調査を進め、2015年度には昆虫の調査も実施しました。その結果、棚倉町の里山は多種多様な生物が生息する大変貴重な場所であり、活用上の価値・ポテンシャルも非常に高いことがわかりました。2016年度からは、これらの結果をふまえて里山の再生・活用に向けた具体的なプランづくりに取り組む方針です。

ひとはく Kids キャラバン in たなぐらまち

自然に親しんだり、自然の中で様々な体験をしたりすることは子供達の豊かな感性を養うのに大変効果的です。私達は棚倉町の里山を子供達の自然体験活動に活用することが重要であると考え、このような取り組みの例として2015年9月に「ひとはく Kids キャラバン in たなぐらまち」を棚倉幼稚園で開催しました。町にはこの幼稚園以外に3つの幼稚園がありますが、キャラバンにはこれらの幼稚園も参加しました。参加人数は年少、年長あわせて276名でした。4つの体験プログラムと移動博物館車「ゆめはく」での展示を行いました。会場は大変な賑わい

で、子供達のキラキラした表情が印象的でした。



棚倉幼稚園で開催した「ひとはく Kids キャラバン in たなぐらまち」の様子



棚倉町里山再生・活用プロジェクト

代表者：石田弘明

分担者：八木 剛、上田萌子、大平和弘、黒田有寿茂

協力者：小館誓治、古谷 裕、塚本健司、鐵 慎太郎（兵庫県立大学大学院）、浅見佳世（株式会社 里と水辺研究所）

財源：一般財団法人 棚倉町活性化協会からの受託研究費